

I 小田尚稔の演劇について

I-i 小田尚稔(おだなおとし)とは

I-ii 小田尚稔の演劇とは

⇒オーケストラ(劇団)でもバンド(所謂、ユニット)でもなく、シンガーソングライター(個人企画あるいは自作自演、DIY的な運営)

II 上演作品について

・「簡単な生活」(2015年8月)/スピノザ『エチカ』

⇒「よい」とはなにか

・「凡人の言い訳」(2016年3月、2017年4月、2018年4月)/プラトン『ソクラテスの弁明』

⇒「よく生きる」とはどのようなことか

・「是でいいのだ」(2016年10月、2018年3月)/カント『道徳形而上学の基礎づけ』、フランクル『それでも人生にイエスと言う』

⇒自分自身に「よい」と言えるか

・「聖地巡礼」(2017年2月)/南直哉『恐山』『善の根拠』『老子と少年』

⇒価値基準(「善い(あるいは悪い)」)が揺れたとき、人はどうするか

・「悪について」(2017年9月)/アウグスティヌス『自由意志』、『告白』

⇒「悪い(善い)」とはなにか

・「高架線」(2018年1月)/滝口悠生『高架線』

⇒ものや概念や場所などを媒介にして、人はどのように移ろっていくか(社会や人生において、人と人との繋がりや関係性)

III 劇作について

III-i 戯曲(上演台本)の執筆方法

III-ii モチーフやテーマについて

・西洋哲学と演劇、プラトンやその他の対話篇を参考に

III-iii 劇作(上演作品)について心掛けていること

※ よい脚本(拙作で出来てないと思っていますが)とよい演技と、素朴な演出

・よい脚本、よい演技とはどのように考えるか

⇒手間を掛けたもの、よく考えられたもの、観客に誠実なもの

III-iv 感銘を受けている演劇や劇団/イッセー尾形(演出:森田雄三)とポツドール

・魅力的な演技(観客への想像を想起させるパフォーマンス)と観客に対する誠実さ

⇒上演(演劇作品)は、言うてエンターテインメント(いつでも、どこでも、誰にでも伝わる、楽しめるもの)

IV 演出について

IV-i 演出の定義(現時点で小田が考えている演出の業務内容)

・照明プラン、音響プラン、空間構成など

・俳優に対する演技プランの提案と注文

IV-ii 稽古について

・発話と演技

⇒観客への想像をなるべく多く想起させるパフォーマンス(想像させる余白)

・モノローグとダイアローグ

モノローグ⇒情景と観客への意識

ダイアローグ⇒対話する相手への反応

⇒俳優と演出(観客を想定して)の双方にとって「一番気持ちがいいところ」、俳優にとって「いいところ」を採用する、一緒に探すというスタンス

※ 演出業務は、上演作品に対する大きな道筋を示すことと、最終的な決定権と全ての責任を負うこと

V 企画と制作業務について

V-i 企画について

V-ii 制作について